



## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > アジア発信の都市モデルをつくる～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事 土谷貞雄さん

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

### アジア発信の都市モデルをつくる

### ～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事



#### 土谷 貞雄 (つちや さだお)

- 1960 東京生まれ
- 1984 日本大学工学部建築学科修士修了
- 1985 イタリア政府留学生、ローマ大学留学
- 2007 無印良品の家を運営する、ムジネット株式会社取締役
- 2008 独立、株式会社貞雄設立

株式会社貞雄代表。無印良品のコミュニケーションサイト「くらしの良品研究所」「みんなで考える住まいのかたち」で、コラムの執筆やアンケートなどを行い、コミュニケーションを通じたものづくりや共感の仕組みづくりを実践。現在は独立して企業のウェブコミュニティサポートを中心に、企業のサポートを主な業務としている。また「HOUSE VISION」を中心としてアジア各地の研究会など、暮らしに関する研究会を多く企画運営している。



Tweet



もっと詳しく検索する

## 未来の社会を変えていく

—これまでの取組について教えてください。

社会の変革をどう見つけるのか。そしてどう解決していくのか。ビジネスを見据えて、企業のコンサルティングを数多く実施してきました。また最近、様々な研究会やトークイベントを日本、アジア各地で行っています。

以下主な活動を2つ紹介します。①HOUSE VISION②無印とURの団地再生プロジェクトです。

### 1) HOUSE VISION

HOUSE VISIONは、「新しい常識で都市に住もう」という理念のもと、「家」を未来の多様な産業の交差点として見立て、新しい暮らし方を具体的に提示するためにつくられた情報発信と研究のプラットフォームです。研究会、シンポジウム、書籍、展覧会などさまざまな方法で、住まいの「新しい常識」を発信し、議論を交わしています。2013年3月には、東京（お台場）で、企業と建築家が結集して大規模な展覧会を開催しました。



出典) HOUSE VISION

2016年にアジア各都市（ジャカルタ、ベトナム、中国、マレーシア、台湾）で順次、展覧会等の開催を予定および計画しています。そのために、アジアの都市を、今どう読んでいくのか、住宅や暮らし



しの課題を見つけ出しどのように解決していくのかについて、各地で研究会を実施しています。

日本のHOUSE VISION活動では、今後、（住宅・生活をとりまく）の社会に、どうい変化がおきるかを具体的に視覚化することを目的にしています。そのために展覧会もおこなったわけです。その展示では、例えば地域で500人が一緒に住む共同住宅、シェアということをコンセプトに単身に近い人たちがどうやって暮らしていけるのか、1つの家族に1つの家という今までのかたちから、1人という個が集まって暮らすというこれからの社会におきるだろう暮らし方の解決を展示したりもしました。また通信技術やハイテクを利用して居住者の健康状態を把握したり、生活者同士の情報の共有のしかたや、情報の戻し方などについても提示してみました。



出典) HOUSE VISION

またこうした研究をするにあたりデータを収集することも大切で、日本の生活者自身に、自分たちの生活の豊かさ、良さに気づいてもらうため、企業と連携してウェブ上でのアンケートなども行ってきました。特にこれは、無印良品のサイトで多く実施しています。

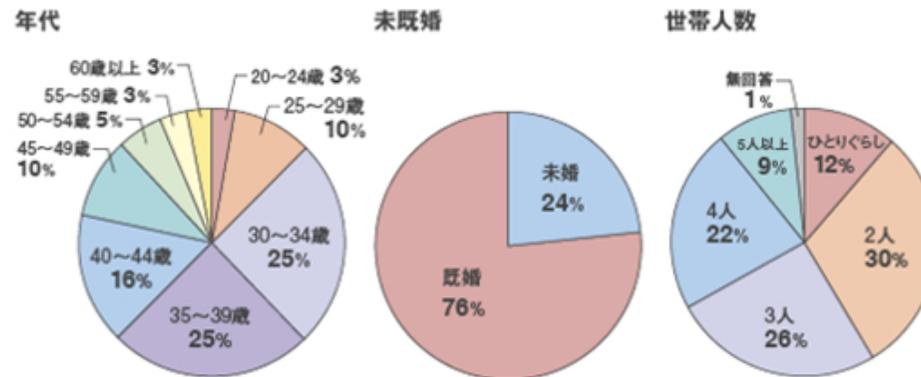
## 第1回 家事についてのアンケート 結果発表

第1回のテーマは「家事について」です。具体的には、家事動線と家事分担についてお聞きしました。

暮らしの中で家事とは避けて通ることができないもの。しかし忙しい私たち現代人は、家事とどのように向き合っていくのか、また住まいの空間の中にどのように組み込んでいくのか、今回のアンケートから暮らしや住まいを考える、新たな視点を見つけていきたいと思えます。

●回答総数：2,967名

●実施期間：2008年11月3日（月）～2008年11月9日（日）



出典) 無印良品の家「みんなで考える住まいのかたちアンケート」

### ○HOUSE VISIONについて

日本の暮らしの未来を考える、アジアの未来を考える

～HOUSE VISIONの活動が目指す事

HOUSE VISIONは2013年に大規模な展覧会を行いました。そこでは企業と建築家と一緒に7つのパビリオンを展示し、3週間で35000人の人が訪れました。この研究会は原研哉氏と私と一緒に始めた活動で今も継続、そして展開はアジア各地に広がっています。2016年にはアジア6カ国で展覧会を行う計画で進んでいます。この研究会は2011年3月東北大震災前日住宅産業にかかわる企業建築家研究者によって組織されました。縮退する日本の経済、高齢化や少子化などの人口問題などを抱えた日本の未来をどう描いていくのか、その状況を縮退ととらえるのではなく、成熟ととらえ、単体での商品開発や企業戦略でなく、暮らし

そのものを見つめ直し、日本の暮らしの根底から、その質を上げていく事が、産業の未来としても重要であると考えたのです。

#### HOUOSE VISION in ASIA

2016年にはアジア6カ国で展覧会を行う計画を進めています。日本東京／中国北京／インドネシアジャカルタ／ベトナムハノイ／マレーシアKL／台湾です。ただし台湾についてはこれからの準備になります。中国での研究会は2011年より始まり、インドネシア、ベトナムでも毎月一回の研究会、トークセッションや現地フィールドワークなどが始まっています。研究会では現地の建築家、研究者、行政などの方と、日本から建築家、研究者などが一緒に活動を進め、テーマごとにフィールドワークやウェブアンケートを行っています。

2016年の展覧会は日本ですで行ったように、実物大のスケールでの各国10個のパビリオンをつくる予定で動いています。6カ国が終わると、すべての展示は60個になり、2017年からは、模型やパネルなどを使ってアジア各地で巡回もする予定です。

1 2 3 4

**この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります**

HOUSE VISION

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

無印良品くらしの良品研究所

登録日 2014年7月31日（木曜）00:00

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.





- イベント・メルマガ
- 研修・オープン会議
- 学習教材・統計
- コラム・事例紹介
- タウンプロデューサー
- まちづくり掲示板
- 政策関連情報
- このサイトについて

## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > アジア発信の都市モデルをつくる～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事- 2ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

### アジア発信の都市モデルをつくる

### ～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事

—これまでの取組について教えてください。（続き）

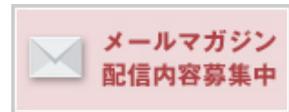
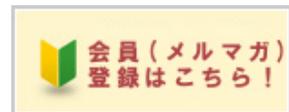
#### 2) 無印とURの団地再生の取組

3年ほど前からURと無印良品が連携して、団地のリノベーションプロジェクトを実施しています。このURと無印良品の団地リノベーションは国内数カ所の団地で展開されています、今後はさらに増えていきます。その住戸は、特に若い人たちに人気が、新たにそうした若い世代が、既存のコミュニティに入居し始めています。暮らすという事は、ハードだけではなくソフト面についてもプログラムが必要です、ハード面においては専有部分だけではなく、共有部分についてももっと考える必要がありそうです。

そこでの課題は専有部分のリノベーションだけでなく、場所のコミュニティをどうつくるかという事が鍵になると考え、その実験として千里中央青山台団地での住人祭（食事会）を企画しました。

大阪府吹田市の千里青山台団地は、千里ニュータウン内にあり、1960年代に建設された1,800戸からなる団地です。当時、団地はあこがれの対象で、入居募集に対して50倍の申込がありました、今では、居住者の高齢化が進んでいます。

この団地で、「住人祭」として、居住者400人が参加する食事会を開催しました。その様子はBSフジ「夢の食卓」という番組で紹介されました。



もっと詳しく検索する



先日、大阪の新千里西町団地で「住人祭」を開催しました。当日はあいにくの寒さ、各地で雪も降ったほどの寒さでした。それでも全員で約60人ほどが参加する大イベントになりました。

出典) MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

「住人祭」は、団地内の住民が飲み物や食べ物を持ち寄って、一緒に食べるという食事会のイベント。参加者は、自分の分だけでなく、隣の方の分の食べ物も一品用意します。半年以上準備を重ね定期的に小さな会合を持ちながら運営してきました。居住者の意識を変えるには、まずは事例をつくってみることが重要です。例えば、食事会のときに、テーブルクロスを用意する、アーティストを呼ぶ、食事会のロゴをつくってみるなど。やってみるとわかるのです。





また、自治会の倉庫に眠っていた石臼をつかってのお餅つきもしました。



子供たちはペットボトルにビーズをいれての楽器づくり。音楽チームは、福岡や東京から3グループ8人が集合。また、日本中を旅するシェフもかけつけ、他にも地元のボランティアが手伝いに来てくれました。

#### 出典) MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

食事は、もともとコミュニケーションとしてわかりやすいツールです、活動を通じて、人々の意識を喚起していくのです。

また、この青山台団地のコミュニティ活動の取組は、無印良品のwebサイトを通して多くの人に定期的に紹介し、社会に対して団地に住まうことに興味をもってもらう工夫をしながら、社会全体の課題として共有できるように努めて来ました。

この青山台団地の次の取り組みも今進みつつあります。すでに活動しているサークル活動のようなものを、「どんな人たちがどのような活動をしているのか」を可視化していこうと思っています。またいつでも気軽に集まれる場所としてカフェを整備したりもしています。

その他にも、ベンチにペンキを塗る。古いものをリサイクルする。などの具体的な取組を計画しています。



出典) MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

こうした試みは全体のコミュニティ活性化のプログラムの初期段階です。たとえば、畑の土を耕すようなものです。今後こうした活動に加えて、もう少し長いスパンで考えていくべき課題がいくつかあります。特に経済面です。働くことができる人には、例えば、団地内で家具のリフォームなどのコミュニティビジネスをおこしていくことや、生活、福祉、食などに関連したサービスをビジネスとして導入していくことも提案しています。そのためには、専有部分を改変して、高齢者施設にしたり、ケアサービスの拠点をつくることも必要でしょう。また空いている部屋を長期滞在の拠点として、外国人旅行者などに利用してもらうことで、外からの新しい風が吹き込むような提案もしています。

○無印良品の家WEBサイトについて

無印良品の家のwebサイトは、60万人を超えるユーザーに対してメルマガを送信しています。「みんなで考える住まいのかたち：無印良品の家のコミュニティサイトのコーナー名です。コラムやアンケート、プロジェクト紹介などを掲載しています。特にアンケート大切なコミュニケーションツールで、一回のアンケートに多い時では1万人もの人が答えてくれています。アンケートは小さな具体的な課題にフォーカスして何回も続けています。結果も重要ですが繰り返し聞いていくことで、ユーザーに暮らしへの意識の変化も生まれてきます。

その中コーナーで今回紹介した無印とURの共同プロジェクトの紹介とあわせて「団地再生物語」という連載ページも掲載しています。

無印良品の家

無印良品は、現代の理想的な「住まいのかたち」を探しはじめています。  
 リビングやダイニングなどといったお住居の用途から離れて、必要な空間を自由にこころ作り上げていく道筋を、みなさんとの対話を通して考えていきたいと思えます。

住まいのかたちは人の数や家族の数だけあるはずですが、一方で、共有できる普遍的な知恵も大事です。  
 類型にとらわれない柔軟な知恵も大事です。  
 現代の日本の住まいの可能性を探ってみましょう。

## みんなで考える 住まいのかたち

集合住宅でリノベーションして住むなど、様々な状況が想定されます。  
 時には具体的なプロジェクトも飛び出します。  
 どうお話ししないように、時々にはのぞいて、そしてご参加ください。  
 さつこのうちに、ご自身の住まいのかたちをたどり着けるはずですよ。

新着情報 2014.7.8 【団地再生物語】プロジェクト1年をふりかえりました。

進行中のプロジェクト

- リノベーション
- スケルトンハウス
- 家とまち
- 家探しと種
- 集合住宅

家探しについて

- 生活環境から「くらし」を見直す
- 第1期アンケート
- 第2期アンケート
- 第3期アンケート

住まいの報告

- 住まいの報告
- 住まいの報告
- 住まいの報告

実現した住まいのかたち

- 実現したリノベーション住戸
- 全棟通風システム

無印良品の住まいの取り組み (08-6207-7271)

## MUJI×UR 団地リノベーションプロジェクト

GOOD DESIGN  
AWARD 2013

団地が理想の家になる

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクトは、これまでにない暮らし方を賃貸住宅で実現しようとする試み。古くなった住まいも愛着を持って長く丁寧に住みつないでいくことが、これからの日本の暮らしのスタンダードになってほしいと思っています。また、みなさんと一緒に、新しい地域コミュニティのかたちや、団地の再生についても考えていきます。



臨時募集決定

> リバーサイドしるきた団地、新千里西町団地、東豊中第二団地で、計8部屋の臨時募集が決まりました！  
入居申込は7/13（日）、先着順受付です。

### MUJI×UR団地リノベーションプロジェクトの取り組み



出典) 無印良品の家

1 2 3 4

この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

HOUSE VISION

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

無印良品くらしの良品研究所

登録日 2014年7月31日（木曜） 00:00

---

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > アジア発信の都市モデルをつくる～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事- 3ページ目

街と、人と、生きていく。 マチビト

まちづくりコラム

タウン誌事例集

マップ事例集

取組事例

地図から検索

### アジア発信の都市モデルをつくる ～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事

#### 現場をみる・プログラムをつくって実行してみる

一団地再生、コミュニティ活性化の取組をすすめる上で心がけているポイントを教えてください。

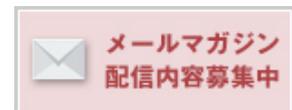
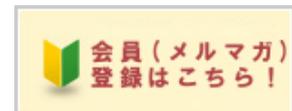
#### 1) いち早く可視化すること

取組を持続させていくためにはプログラムが必要なこと、専任で運営していくメンバーが必要なことの2つが鍵です。

また運営のためのプログラムは常に変化していくものです。プログラムを完成させるには時間がかかります。手法はいろいろとありますが、はじめからすべての答えがあるわけではありません。大きな計画をたてて、まずは実行してみて、問題が起きたときに修正をしていながら精度をあげていく事がポイントです。

実際ひとつのプログラムをつくって実行してみると、うまく動かない事はよくあります。その時には、他の事例を研究したり、現場のヒアリングをするなどして、プログラムを変更していくことで、うまくいかないことが失敗だとは言えません、ひとつひとつは小さなアクション、失敗しても全体に深刻な問題を引き起こす事はあまりありません。むしろ時間をかけて精緻なプログラムを動かして失敗すると大きなロスになります。まずは行動を開始することです。

また、これまで、世の中で紹介されている様々な成功事例は属人的なスキルが強調されすぎていて、模倣が難しくなってしまう。成功要因を属人的なスキルに還元しないことが重要です。



もっと詳しく検索する

そのためには、事例をわかりやすく伝えること。図式化・文字化して伝えていくことが重要です。

団地のコミュニティ再生に関して言うと、URは全国に団地のストックを持っており、ひとつの成功例を各地での取組める可能性をもっています。まずは今回のように成功したプログラムの可視化、そして共有を図っていく必要があるのです。団地内コミュニティ形成の運営については、プログラムがしっかりしていれば、特別な専門知識を持った人が求められるわけではありません。

## 2) 団地の構成要素を立体的にみること

全体を面としてとらえるのではなく、小さな単位でのつながりを積み重ねて見ることが重要です。

例えば下駄履気住居の商店街ですが、空き地・空き店舗を有効活用できる小さな点の集合としてみるにより、新しい事例を生み出すことができるかもしれません。

再生の鍵はスタートの1人の力です、新しいことを生み出すような人材が大事です。例えば、デザイナーで精力的に仕事をしている人。設計、デザインなどクリエイティブな職種の人がまちの路面にオフィスを構えることで、そこに人が集まってきて、交流ができます、そのことが波及してまわりの店が輝いてくるということもあるでしょう。それを見た人が、そのまちで仕事をしたい人たちがやってくるということにもつながります。

団地再生の取組で言うと、5千戸~1万戸の団地の中で、一棟だけ200戸ぐらいの単位でカフェ、店舗、シェアハウスなど小さなことを仕掛けてみることです。そして、それらの仕掛けが、点を増やすように、立体的につくりあげるのです。



## 団地の新しい暮らし方、そしてコミュニティの再生に向けて

千里シェアルーム大衆の住まいレポート

### 団地のシェアルームに、無印良品で暮らしています。

無印良品のシェアルームで生活したら、どんな毎日になるんだろう。そんな疑問にお応えする住まいモニター企画が「無印良品の家」のWebサイトで始まりしました。1年間無料でMUJI×UR団地のシェアルーム(家具付き)で暮らし、その様子をブログで報告していきます。舞台は大阪の新千里西町にあるUR団地。レポートするのは同じ大学を卒業した若い仲良し男性3人組。光と風に恵まれた団地でシェアな暮らしに挑戦します。

[http://www.muji.net/mt/ie/senzi\\_share/](http://www.muji.net/mt/ie/senzi_share/)



新しいコミュニティのかたちへ

### 千里青山台団地物語

大阪府吹田市にある「千里青山台団地」で新しい物語が始まります。団地の空き地や公園、集会所をどう利用していくのか、住人同士のつながりをどう生み出すのか、新しく住み始めた人が、長く住んでいる人と同じように、団地で住むことの楽しさや愛着を育むための方法とは何か、皆さんと一緒に考え、具体的な活動につなげるためのプロジェクトです。団地内の暮らしや新しいコミュニティが生まれる様子をお伝えします。

<http://www.muji.net/mt/ie/column/soyamada.html>



出典) MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

### 3) 現場をみること・データを集めること

こうしたプログラムを運営するには、調査はかせませません。ウェブ上でも行いますし、訪問調査やヒアリングも必要です。

調査にあたっては、仮説を持っていることが大切です。

仮説があれば、質問もより明確になりますし、結果の検証も楽になります。

仮説はよい質問を作り出す事ができ、よし質問がよい答えを導きだすのです。

### 4) 合意形成のプロセスをつくること

また、取組を進める上で、小さなアクションやミーティング、ワークショップなどをたくさん積み重ねて、住民の合意をとることも必要となるでしょう。合意形成とはゴールではなくプロセスを共有することです。プロセスが共有されて、ゴールの形がみえ始めると、自然と物事がうまく運ぶように

なるようです。

特に行政と一緒に動く取り組みは市民にとってクレームの対象となりがちです。市民（住人）には自分たちのこととして考えてもらうことが必要です。空き地が放置されたら、自分たちのまちの価値が下がるというように、自分事として課題を理解してもらうことが大事です。

1 2 3 4

■ [この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります](#)

HOUSE VISION

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

無印良品くらしの良品研究所

登録日 2014年7月31日（木曜）00:00

---

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.



## コラム・事例紹介

ホーム > コラム・事例紹介 > 街と、人と、生きていく。 マチビト > アジア発信の都市モデルをつくる～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事 - 4ページ目

|                   |
|-------------------|
| 街と、人と、生きていく。 マチビト |
| まちづくりコラム          |
| タウン誌事例集           |
| マップ事例集            |
| 取組事例              |
| 地図から検索            |

### アジア発信の都市モデルをつくる ～団地再生プロジェクトの取り組みとアジアの都市モデルを考える事

これからの暮らしのシナリオをどのようにつくっていくか、価値観や生き方にどう影響をもたせていくのか

一将来の都市と都市におけるライフスタイルのイメージについて、どのようにお考えですか。

#### 1) ネットワークシティという概念

最近私は都市の見方としてネットワークシティという考えをよく使います。今までの社会や都市の構造は常に中心をつくることで成立していました。しかしネットワーク型の社会では中心がそもそもありません。都市に中心を考えるのは近代ヨーロッパ的な考え方です。日本やアジアの都市のモデルとしてはなりたないように思います。

最近コンパクトシティという概念がよく使われます。コンパクトシティは、空間的・形態的にとらえるにはわかりやすいですが、その中をミクロスケールでみていくと、活動として、小さな関係性の集積をどれだけ作ることができるかが求められると思っています。

今は経済的にも大きな変革期です。そういう時期に経済的に自立していく街とはどういうものかを考える必要があります。ひとつのまちを大きな企業や産業の単位でとらえることなく、小さな企業のネットワークを見直す必要があります。そういう人たちのつながりで複層的にできる都市の方が、復元力があるのではないかと思います。デトロイトのような1つの産業によった都市の弱さはこういったところにあったとも言えます。

ログイン

会員(メルマガ)登録はこちら!

メールマガジン 配信内容募集中

マチイベ! -街のイベント- 掲載依頼募集中

サイト内検索

検索

もっと詳しく検索する

ヨーロッパの都市とアジアの都市では、都市化のプロセスも文化もまったく違います。アジア発信の都市モデルをどうつくっていくかが問われているのだと思います。そのため、都市の読み方を、ネットワークシティという概念を使って説明したいと考えています。

## 2) 都市におけるライフスタイル

前述したように近代都市の重要な考え方であるゾーニングという考え方はうまく機能しなかったのだと思います。効率性のみを重視する都市の構造が、今後の街の発展をかえって阻害する要因になっていく可能性をもっています。ネットワーク型の都市の見方をすると、様々な新しいライフスタイルの可能性が考えられます。小さな点のつながりを見つけ出し、いろいろなレイヤー重ねて街をみていくことです。都市とは本来そういうものであったのではないかという、近代都市の成り立ちそのものを疑ってみる必要があるのです。

### 【事務局コメント（取材後記）】

多様な世代による多様な暮らし方の提案、コミュニティの形成などを目指す団地再生の取組は、まちづくりそのものでもあると言えます。取組を進めるにあたって、「まずは実行してみる」というコメントが印象的でした。大きな計画を立てた上で、小さなアクションを積み重ねて、何か問題が起きたときに修正をしていながら精度をあげていく、という考え方は、中心市街地のまちづくりを進める上でも有効です。

また、土谷さんは調査の大切さを強調されています。「日本・アジア地域における未来の暮らしを変えていく」という、HOUSE VISIONがめざす将来像は、スケールこそ大きいですが、ユーザーを対象とした定期的なライフスタイル調査を積み重ねていって、共通の解を見出していくという作業が基礎となっています。

建築家が描く未来の住まい、MUJIのセンスの良い家具・建具を使ったリノベーションといった華やかなイメージが、このような地道な取組に支えられていることを教えていただきました。



Tweet





この記事をご覧になった方にはこちらが参考になります

HOUSE VISION

MUJI×UR団地リノベーションプロジェクト

無印良品くらしの良品研究所

登録日 2014年7月31日（木曜）00:00

---

[よくあるご質問](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#) [リンク・バナーについて](#) [ご利用規約](#) [個人情報の取り扱いについて](#) [個人情報保護方針](#)

経済産業省（法人番号 4000012090001）

主催／経済産業政策局 中心市街地活性化室 事務局／株式会社 野村総合研究所

Copyright © Ministry of Economy, Trade and Industry.